

明神樋門、明神川逆水樋門(みょうじんひもん、みょうじんがわぎやくすいひもん)について

員 数：2基
 所在地：大府市横根町
 所有者：愛知県

名 称	形 式	大 き さ	建設年代	改 修 歴	登録基準
明神樋門	石造アーチ式 2連樋門	延長 21m	明治34年 (1901)竣工	—	再現することが容易でないもの
明神川逆水樋門	石造アーチ式 樋門	延長 10m	大正5年 (1916)竣工	—	再現することが容易でないもの

【概要】

明神樋門、明神川逆水樋門は、大府市内の尾張と三河の国境をなす境川^{さかいがわ}の右岸に位置する樋門。それぞれ石造二枚厚の半円形二連アーチと単アーチの通水部の上に、人造石工法¹で築いた壁体を重ねる。明神樋門は、水田からの排水を集めた五箇村川^{ごかそんがわ}が明神川^{みょうじんがわ}と立体交差する地点、明神川逆水樋門は、明神川が境川の堤防を横断する地点に築かれている。

築100年以上経つ現在も樋門としての役目を果たしており、人造石工法の発案者である服部長七^{はっとりちょうしち}の開発に係る貴重な人造石遺構である。

人造石工法¹ 在来の左官技術である「たたき※」の技術で大規模な土木工事に応用し開発された工法。碧南市出身の服部長七により開発されたとされる。

※赤土、消石灰、にがりの三種類を混ぜて練り、塗って叩き固めた素材。



明神樋門



明神川逆水樋門